



世界のトップアーティスト、ジャミロクワイのニック・ファイブ



商品説明にあたるマーク・グッディ社長

古き良き時代のサウンドが新世紀に復活！ 神田商会 アッシュダウン 新製品発表会



「厳しい市況が続いていますが、アッシュダウンを商材に加えていただき、皆さまと一緒に乗り切りたい」と桜井敏常務

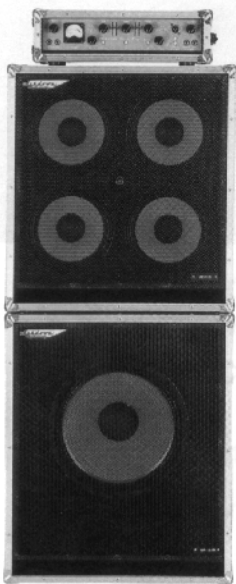


「今後アッシュダウン製品の販売を強力に進めていきたい」と横山努 常務

神田商会（鈴木政行社長）は、約三年前に取扱いは開始した新鋭のアンプメーカー、英国アッシュダウン製ベースアンプの新製品発表会を昨年十一月二十七日に大阪・朝日プラザホテルアミニティ1心斎橋で、同二十九日に東京・銀座のライブハウスTACTで、それぞれ多数のディーラー、報道関係者を集めて開催した。アッシュダウン社からマーク・グッディ社長、同アンプを愛用する代表的なミュージシャンであるジャミロクワイのベーシスト、ニック・ファイブの両氏が来日し、デモ演奏を交えた詳細な説明がセミナー形式で進められた。現在ではトップブランドの一つとして確固たる地位を築いているトレス・エリオットの社長として、十四年間に亘り多くの実績を残したグッディ氏は、「当時から新しいアイデアを積極的に市場に投入して成果を上げたのですが、更にあらゆるアーティストの要望を取り入れて、世界にない新しいアンプを作りたい。古き良き時代のパンチの効いたファットなサウンドを復活させました」とアッシュダウンの概要を語った。

今回発表されたABMシリーズは、レット口な雰囲気を感じ出した大出力のプロフェッショナル仕様。インプットレベルの表示には同社のトレードマークであるVUメーターを採用したほか、操作性に優れたロータリーノブ、自動的にオクターブ下の音を加えるサブ・ハーモニクス・コントロール、パチ材を使用したスピーカークイックで重厚なベースサウンドを実現した。また、この基本的なコンセプトを踏襲しつつ、ハイエンドなサウンドをビギナークラスにも提供したいとして開発された「Electric Blue」シリーズも、コストパフォーマンスに優れたモデルとして積極的に提案していく。何れも今月発売予定。これらのサウンドをファイブ氏がスラップを交えた巧みなテクニクで実演。ジャミロクワイのナンバーから数曲を披露し、アンプの魅力を存分に伝えた。

グッディ社長は「日本の皆さんからも色々な意見をいただいて製品にフィードバックしていきたい」と締め括り、日本の市場にも大きな期待を寄せた。今後はザ・ファールのビート・タウンゼントと共同開発を進めているギターアンプも市場に登場することである。同社の躍進ぶりが注目されることである。（小野寺）



↑ ABM500をベースに堅牢なアルミキャビネットがデザインされたニック・ファイブのシングチャーモデル。ABM500NFヘッド、オリジナルスピーカーを搭載したABM-410H NF（10"×4+ホーン）、ABM-115-500 NF（15"×1）キャビネット（セット価格420,000円）

→ インプットレベルを表示するVUメーターが顔し出すレット口なルックスと、ロータリーノブ、スライダによる手軽な操作性、かつ重厚なサウンドを兼ね備え、アッシュダウンのノウハウを凝縮した「ABM」ヘッド。写真は出力450W RMSのABM500（185,000円）。他に300W RMSのABM300（135,000円）、2Uトラック仕様のABM500RC、ABM300RCがラインナップ



→ ABMの基本性能を踏襲したハイコストパフォーマンスモデル「Electric Blue」コンボ。コントロール部は、VUメーター風のLED、5バンドのロータリーノブを搭載。出力は130W RMSで、オリジナルBlueLine 12"スピーカーを搭載した130-12（60,000円・左）と、15"スピーカーの130-15（70,000円）

